

レンベのクマノミ類とそのウオノエ (甲殻亜門・等脚目)

川崎市 和田たか子 (Wada, Takako)
株式会社水士舎 齋藤暢宏 (Saito, Nobuhiro)

クマノミ類はイソギンチャク共生性の魚類として知られ、その色彩の美しさからレジャーダイバーの観察対象として人気が高い。世界から2属28種が知られ(モイヤー, 2001), うちクマノミ属6種が日本近海に分布する(中坊, 2013)。このうちクマノミ *Amphiprion clarkii* (Bennett, 1830) はインド・太平洋域に分布し、国内では千葉県以南に生息する(益田ら, 1984)。齋藤・星野(2015)は伊豆大島“秋の浜”地先海域における海洋生物調査において、クマノミ幼魚の口腔内に寄生するウオノエ科等脚類の幼体を報告した。同様のクマノミ口腔内へのウオノエの寄生は鹿児島県坊津や高知県柏島(重城私信), 八丈島(加藤私信)などのダイビングポイントでも確認されており、またインターネット情報でも同様の画像が多数ヒットする。

レンベ Lembeh はインドネシアのスラウェシ島北部に位置する人気の海洋レジャースポットである(図1)。レンベ海峡には無数のダイビングポイントがあり、各国から多くのダイバーが訪れる。レンベでは、Saddleback^{*1} (クマノミ), Nemo(カクレクマノミ *Amphiprion ocellaris* Cuvier, 1830), Pink (ハナビラクマノミ *A. perideraion* Bleeker, 1855), Skunk^{*2} (セジロクマノミ *A. sandaracinos* Allen,

1972), Spincheek (*Premnas biaculeatus* (Bloch, 1790)) と呼ばれる5種のクマノミ類が見られる。著者の一人和田は2008年の8月ごろにクマノミ口腔内へのウオノエの寄生を発見し、以来レンベを訪れるたびに調査し、5種すべてのクマノミ類への寄生を確認した(図2)。クマノミへの寄生率は特に高く、幼魚から成魚に至るまで、多くの魚体への寄生が観察されている。Spincheek への寄生は2015年6月に初めて確認され、寄生は極少数。セジロクマノミは流れの早いポイントにいたため写真撮影ができていないが、口腔内のウオノエは目視で確認されている。

伊豆大島のクマノミ口腔内に寄生するウオノエはいずれも幼体であった。これに対してレンベの、少なくとも写真に撮影されたクマノミ寄生個体(図2A-B)はヒゲブトウオノエ属 *Ceratothoa* の成体に近いもののようである。レンベでは2008年の発見以降ウオノエの寄生は広がり、最近ではほぼすべての魚体へ寄生が見られるほどになっている。伊豆大島近海では2014年に3個体のはじめて確認されたのみである。もしかすると当該海域も、レンベ同様今後クマノミへの寄生が広まっていく可能性がある。なお、鹿児島県、高知県、八丈島でみられた被寄生魚は成魚とのことであり、これらに寄

生するウオノエ類も、レンベ同様成長した個体の可能性がある。

クマノミ類寄生性のウオノエ類としては、セイシェルから *Amphiprion akallopisos* Bleeker, 1853 体表寄生性の *Renocila heterozota* Bowman & Mariscal, 1968 が報告されるが、口腔内寄生性の種は知られていない。これらレンベのクマノミ類5種に寄生するウオノエの分類学的位置については非常に興味もたれる。しかしクマノミ類寄生性ウオノエ類は、現在この画像があるのみで、標本は得られていない。レジャーダイビングの鉄則として、フィールドでは生き物の採集がご法度だからである。それにもまして、海外というだけでも標本の入手は困難かもしれない。今後はしかるべき手順を踏んで、これらウオノエ類へアプローチしていきたいと考えている。

謝辞 原稿をご高聞いただき、ウオノエ類について助言をいただいた、山内健生博士(兵庫県立大学)、クマノミ口腔内寄生性ウオノエ類の情報をお寄せいただいた、加藤昌一氏(Regulus Diving・八丈島)、ならびに重城のり子氏(袖ヶ浦市)に感謝する。

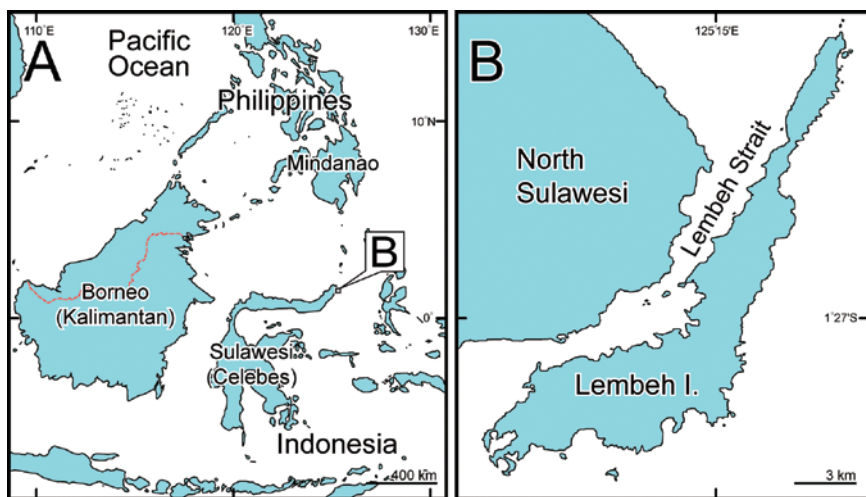


図1 インドネシア周辺海域 (A) とレンベ Lembeh (B)

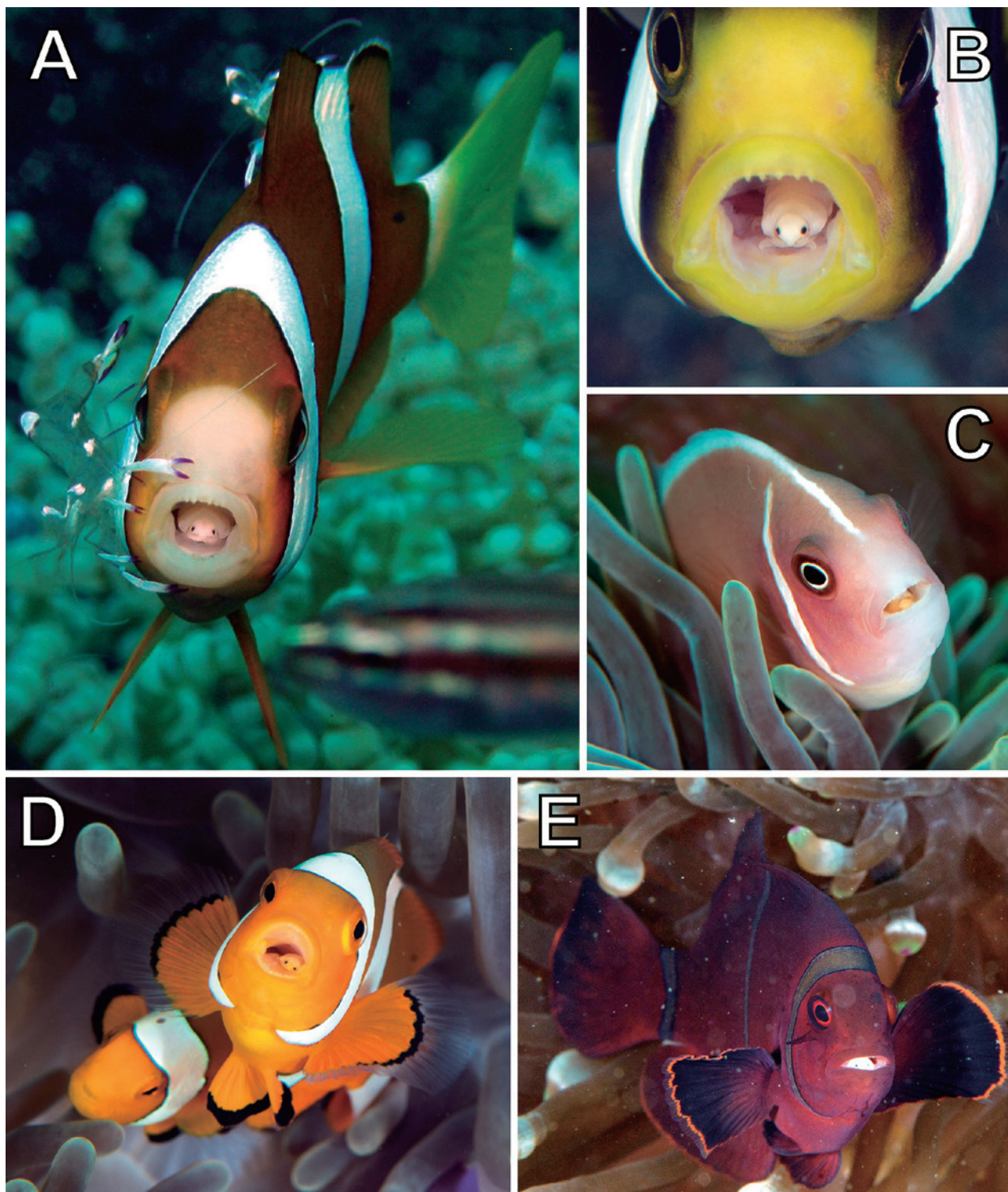


図2 レンベでみられるクマノミ類4種と口腔内寄生性ウオノエ類。A-B, クマノミ *Amphiprion clarkii* (レンベでの呼び名:Saddleback); C, ハナビラクマノミ *A. perideraion* (Pink); D, カクレクマノミ *A. ocellaris* (Nemo); E, スパインチーク *Premnas biaculeatus* (Spincheek)。

注 ^{*1}Saddleback anemonefish は本来トウアカクマノミ *Amphiprion polymnus* (Linnaeus, 1758), ^{*2}Skunk anemonefish は *A. akallopisos* を指す英名だが (モイヤー, 2001), 本報告では現地の呼び名を採用した。

引用文献

Bowman, T. E. & Mariscal, R. N. 1968. *Renocila heterozota*, a new cymothoid isopod, with notes on its host, the anemone fish, *Amphiprion akallopisos*, in the Seychelles. *Crustaceana*, 14(1): 97-104.
 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 1984. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京, 466 pp., 247 pls.

モイヤー, ジャック・T. (余吾 豊 訳). 2001. クマノミガイドブック. 131 pp. TBSブリタニカ, 東京.
 中坊徹次 (編), 2013. 日本産魚類検索: 全種の同定 (第三版). 東海大学出版会, 秦野, xlix+xxxii+xvi+2428 pp.
 齋藤暢宏・星野 修. 2015. 伊豆大島で採集したウオノエ類未成熟個体の記載. *Cancer*, 24: 53-62.